



学校だより

令和4年 9月30日

横浜市立榎が丘小学校

～豊かにかかわり合い、しっかり学ぶ、心身ともに健やかなえのきの子～

TEL 045(983)1067 FAX 045(983)5284

HPアドレス <https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/enokigaoka>



桜の樹に寄せて

校長 仲川 美世子

本校の校舎建替は、平成30年に決定し、それから地域の方々を含む関係者会議が始まり、敷地をどのように生かして未来につながる学校としていくか、検討が重ねられてきました。そしていよいよ今年度着工の運びとなっているのですが、それに関わっているいろいろな興味がわいたので、本校の施設の歴史をひもといてみました。

昭和49年1月1日 つつじが丘小学校分校として1～5年生のみ開設（校舎の一部のみ利用できた）

4月1日 開校（体育館を含む管理棟の建築は間に合わず）

昭和52年3月3日 体育館棟完成

昭和62年7月 校庭拡張工事開始（完成は63年1月）



正門から続いていた斜面と桜

この校庭拡張については、北側の斜面を埋めて平らにする案もあったそうです。しかし、正門から校舎にかけての公園側道路下が、実は開校時から斜面になっていて、そこに桜の木が植わっていました。花の季節には公園側と校庭のその桜たちで花のトンネルができ、隠れた名所になっていたとか。そして校庭を拡張する際に、北側を埋めるよりこの斜面を削った方がより面積が増え、経費も少なくすむことがわかり、桜の木もろとも斜面を削り、今のように直壁になったようです。そして、その桜たちを何とかして残したいと、今の昇降口前に移植されたようです。



昇降口前に移植された直後の桜

さてその桜たち。夏休みが始まったかと思うと葉がひらひらと舞い始めます。秋の落葉とはまた違って、暑すぎる気候が影響しているようです。美しく色づいた葉ならまだきれいなのですが、黄色だったりすっかり枯れた茶色だったりの葉が昇降口前にあるのは残念なので、毎朝せっせと掃くようにしています。少しでも気持ちよく校舎に入れたらいいかなと思うだけなのですが、これがなかなか、毎朝掃いても掃いてもすぐに上から降ってきます。昇降口も正門前もスロープ門周りも桜やその他落葉樹がたくさんあるので、ある意味きりがありません。

でも最近、黙々とほうきを動かしながら、なんとなくこの作業、子育てに似ているなど思い始めました。やってもやっても言っても言っても変わらない、繰り返し、きりがいい……。よかれと思ってしているけれど、効果があるのかしら？ でも、誰かがどこかで見てくれて、「毎日ご苦労様。」「すっかりきれいになったね。」と言ってくれる方もいます。きっとこの小さな積み重ねが来年の美しい開花につながるかな、よりよい学校づくりにつながるのではと思っています。諦めずによりしつけを続けることは社会に羽ばたくたくましい子が育つことにつながると思います。子育てにはありませんが、この桜にはきりがあります。残念ながら新校舎建築のために切られることになっています。2度の移植に耐えられるほどの寿命はないそうです。私は今日も心を込めて落ち葉掃きをしたいと思います。子どもたちに心を込めて声をかけるのと同じように……